

農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー登録票（基本情報）

500

令和 3年 5月28日現在

ふりがな 氏名	たけだ つとむ 竹田 努					
所属先	所属先名称	五島市役所				
	役職名	地域おこし協力隊				
専門分野	捕獲手法 侵入防止技術 周辺環境整備 地域合意形成 野生動物管理（生息調査含む） 処理（焼却・減容化） 利活用（食肉利用等） その他（ 安全管理、 感染症対策 ）					
対象鳥獣	シカ イノシシ サル クマ（ツキノワグマ・ヒグマ） ハクビシン アライグマ アナグマ カラス カモ ヒヨドリ スズメ ムクドリ その他鳥獣（ ）					
対応可能地域	全国 北海道 東北 関東 北陸 東海 近畿 中国 四国 九州 沖縄 その他※特定の都道府県、地域（ ）					
免許及び資格	狩猟免許 （ 銃 ： 取得年 年、 わな ： 取得年2016年 ） 鳥獣保護管理（ ） 鳥獣管理士（ 鳥獣管理士 準1級 ） その他（ ）					

活動実績	
活動期間	①平成22年5月～平成31年3月 ②平成28年4月～平成29年12月 ③平成31年4月～現在
地域	①宇都宮大学研究員（全国）②栃木県日光市 ③長崎県五島市
対策の種類 ※該当に○を記入	<input checked="" type="checkbox"/> 捕獲手法 <input checked="" type="checkbox"/> 侵入防止技術 周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 地域合意形成 <input checked="" type="checkbox"/> 野生動物管理（生息調査含む） 処理（焼却・減容化） <input checked="" type="checkbox"/> 利活用（食肉利用等） その他（ 安全管理、感染症対策 ）
対象獣種 ※該当に○を記入	<input checked="" type="checkbox"/> シカ <input checked="" type="checkbox"/> イノシシ サル クマ（ツキノワグマ・ヒグマ） <input type="checkbox"/> ハクビシン アライグマ アナグマ <input checked="" type="checkbox"/> カラス カモ ヒヨドリ スズメ ムクドリ その他鳥獣（ ）
活動の内容	<p>カラスについて カラスの人獣共通感染症伝播調査ならびに家畜感染症伝播の調査。GPSデータロガー装着による放鳥実験で、カラスの行動範囲、運動能力の研究調査を行った。カラス除けのためのグッズ研究を進め、最終的に「カラス侵入禁止」の張り紙でカラスを追い払うことができることを提案した。</p> <p>シカについて 日光における環境省戦場ヶ原シカ侵入防止柵の管理を行う。その際には、「奥日光シカ管理専門員、Oku Nikko Deer Manager」という団体名をつけて、観光客や学術に対して鳥獣管理への理解を深める啓発活動も実施した。「野生生物と社会」学会では複数回発表を行ってきた。 五島市においては、シカが多い玉之浦を中心に、駆除を実施する捕獲隊の育成を進め、その一方で、市民が主体的にシカを利活用する事業の推進を行っている。その中で、市民によって鹿革「ファーストシューズ」が九州中心に広く販売されており、認知度も上がっている。</p> <p>イノシシについて 東日本大震災で生じた原発事故による汚染で、イノシシがどの程度汚染物質を体に残しているのかについて、複数年に渡り調査した。畜産学会や獣医学会での発表も行い、事故前から事後直後、そこから1年以上たって放射線量が季節変動を繰り返しながら次第に減少している様子を明らかにしてきた。 五島市においては、シカの駆除が進むのに並行して、イノシシが高齢化した地域に頻出するようになっている。この現状を打破するため、捕獲隊の能力を向上して、イノシシの捕獲、食肉としての利用を啓発し、普及している。</p> <p>安全管理について 狩猟など捕獲を行う場合、事故が起こりうる。これについて解決するために、感染症、作業、機材のメーカー、銃専門家、動物飼育の専門家、医師などの協力を得て、「捕獲の安全」を編著し、書籍化した。</p>